シカ捕獲プロファイル

（九州局）長崎森林管理署

1. 署の基本情報

① 署の基礎的情報

管内面積			21,571.00ha	
シカ生息密度			50頭/km2以上	
管内市町村数			16	
		R3	R4	R5
更新面積		1.70ha	6.54ha	0.00ha
人工造林面積		1.70ha	6.54ha	0.00ha
シカによる森林被害面積		0.00ha	0.00ha	0.15ha ※1
うち、人工林被害面積		0.00ha	0.00ha	0.15ha

② 署のシカ捕獲等対応体制

担当職員	森林技術指導官			
		R3	R4	R5
全職員数		28人	28人	28人
わな講習受講者数		1人	1人	1人 ※2
狩猟免許所持職員数		0人	0人	0人

③ 捕獲実行形態

			R3	R4	R5
職員実行					
委託事業			○	○	○
わな貸出		協定	○	○	○
		協議会			
その他	協定	鍵貸与			
		除雪等			
		その他			
	協議会		○	○	○

④ 協定・協議会数

			R3	R4	R5
わな貸出		協定	1	1	1
		協議会			
その他	協定	鍵貸与			
		除雪等			
		その他			
	協議会		3	3	3

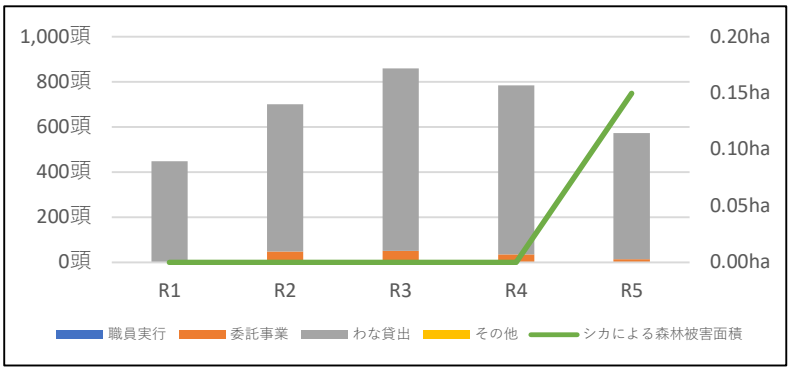
⑤ 捕獲の方法、実施時期

・ 捕獲の方法		R3	R4	R5
改良型わな等	小林式			
	こじゃんと			
	その他			
くくりわな		○	○	○
囲いわな				
銃（モバイルカリング等）				
・ 捕獲実施時期				
職員実行				
委託事業	6月～10月			
協定	4月～3月			

⑥ 捕獲以外の被害対策

シカ防護柵実施有無	有
シカ忌避剤使用有無	無

2. 捕獲頭数とシカによる森林被害面積の推移



		R1	R2	R3	R4	R5
捕獲頭数	職員実行					
	委託事業	0頭	49頭	52頭	36頭	14頭
	わな貸出	448頭	652頭	808頭	749頭	559頭
	その他					
	計	448頭	701頭	860頭	785頭	573頭
シカによる森林被害面積		0.00ha	0.00ha	0.00ha	0.00ha	0.15ha

捕獲頭数が増えたこと、新植箇所にシカネットを設置したことにより、被害面積を抑えています。

※1 シカによる森林被害面積は、森林被害年報における実損面積です。

※2 当該年度にわな講習を受講した人数。

★森林被害対策のワンポイントアピール

関係機関との連携、わな貸出による捕獲

対馬市において、国、県、市の関係機関が情報共有するなかで、捕獲重点区域を設定し、連携して高い捕獲圧をかけるという共通認識のもと捕獲に取り組んでいます。

当署も対馬市との「わな貸出協定」の締結、入林手続きの簡素化などの取組により国有林野内における捕獲頭数を増やしています。

⇒「5. わな貸出（協定・協議会）」をご参照ください。

3. 署長が語る

国境の島における戦略的ニホンジカ対策　～10年後の対馬を見据えた国・県・市の連携と挑戦～

【被害の現状】

「国境の島・対馬」は、平地は少なく山がちで「山の島」でもあります。島の面積の約9割が森林で、田畑を含む平地は全体の3%程度しかありません。

対馬の生態系への影響が少ないシカの適正頭数は3，500頭とされていますが、それよりもはるかに多い約4万頭が島全体に生息しており、シカの食害は、農林業への大きな被害を及ぼすだけでなく、下層植生の衰退とそれに伴う土壌流亡など、生態系被害や時には漁業被害などが発生する場合があります。

【関係機関との連携】

そのため、環境省の呼びかけで、平成30年にシカ被害対策を担う国・県・市の機関が集まり、お互いの持つ情報を共有しながら、シカ被害対策を進めるため「対馬ニホンジカ対策戦略会議」を発足させました。

本会議では、10年後にシカの生息頭数を3，500頭まで減らすという共通目標を立て、環境省、林野庁、長崎県、対馬市の既存の計画と整合性を図り、また、鳥獣保護管理法に基づく長崎県の地域計画として位置づけるべく、対馬ニホンジカ管理計画を作成しました。

計画では捕獲重点区域を設定し、直近の数年間で大きな捕獲圧をかけるという共通認識のもと、各行政機関が個々の取組を続けるのではなく、年3回の関係機関の担当者によるワーキンググループ、年1回の代表者による戦略会議を行っています。

この取組においては、ワーキングで担当者各々が持っている情報を共有し、関係機関が連携協力して取り組みを進めることができ、効率的なシカ対策を実行に移すことができる体制が構築されています。

【ニホンジカの捕獲】

対馬における主なシカの捕獲方法は、事業による捕獲と地元ハンターによる有害鳥獣駆除です。

長崎森林管理署でも、委託事業による誘引捕獲と併せ、対馬市長とシカ被害対策協定書を締結し、有害鳥獣捕獲従事者へのくくりわなの無償貸与や、国有林内への入林手続きの簡素化等を行っています。

また、戦略会議構成機関が、狩猟者アンケートに基づいて①わな設置技術の向上　②止め刺しの仕方・資源活用促進　③埋設の軽減負担　④わな導入支援等についての各種研修や助成事業などを行うとともに、ワーキング以外にも担当者が集まり、話し合いや技術向上に向けた勉強会を行っています。

このように、それぞれの関係機関がシカ捕獲対策に取り組んだ結果、島全体での捕獲頭数は、令和3年度の約10，300頭をピークに令和5年度約8，700頭と大きな捕獲圧をかけることができました。

シカ被害対策の目的は、島内のシカ被害を軽減させることで住民の豊かな生活を維持向上させることであり、シカの生息頭数を目標の3，500頭に近づけることを計画の最終達成目標と考えています。森林管理署としても、引き続き地域の皆さまと一緒に解決策を模索しながら、これからも将来を見据えた対馬のシカ対策に取り組んでまいります。

長崎森林管理署長　　黒木　興太郎
R4　九州森林管理局屋久島森林管理署長
R5　九州森林管理局長崎森林管理署長
R6　現職

管内図

4. 委託事業

① 基本情報・トピック

応札者数　4（1事業当たりの平均）

★目標頭数の決め方

・過去2箇年の捕獲実績を踏まえて、今後決定していくこととしています。

② 特記仕様書での工夫

・R5年度の誘引餌はヘイキューブ100%で実施しています。

・対馬にはツシマヤマネコがおり、錯誤捕獲防止の観点から、わな作動後の直径を3cmとなるよう締め付け金具をセットするようにしています。

③ 委託事業の流れ

		ボトルネック（※3）	改善策（※4）
実施期間・時期の決定	経験値で梅雨時期の捕獲が多いことから、6月～8月に実施しています。	豪雨 台風	事業期間の中止・延長により対応
実施場所の決定	シカの目撃、痕跡等が多い箇所に決定しています。	最新の目撃情報	林業従事者や猟友会から情報収集
わなの設置	くくりわな「笠松式わな」を使用しています。 誘引餌として、ヘイキューブとユクルを使用しています。	人工の確保	経験を下に、捕獲の効率化
見回り	見回りについては1日1回行っています。		
止めさし	撲殺・槍等にて実施しています。		
処理・埋設	処理方法は埋設で作業時間は15～30分程度です。 埋没穴はバックホウで掘削し、埋設場所は林道沿いに設置しています。 捕獲写真については捕獲の都度、撮影しています。	埋設穴の作成 捕獲個体の運搬	事業体で捕獲から埋設まで実施

前年度の実績（森林被害面積抑制、捕獲頭数増加）を更に伸ばすために予定していること

今年度は捕獲エリアが狭かったこともあり、来年度はエリアの拡大、設置わな数の増、ヘイキューブの継続使用、また、小林式誘引捕獲の導入等を行っていきたいと考えています。

※3 全体に影響する問題要因で最も問題視される要因のことです。本票では各取組業務を妨げる要因として取り扱います。
※4 ボトルネックを解消するための方法です。

5. わな貸出（協定・協議会）

① 基本情報

管内市町村数	16
協定締結数	1
協定相手方	

対馬市

協議会参画数	
協議会相手方	

② 協定・協議会裏話

協定締結、協議会発足等にいたるキッカケ

対馬市内における農林業被害を鑑み、シカ被害を軽減するため、2者の連携の下で各般の被害対策に取り組むこととしました。

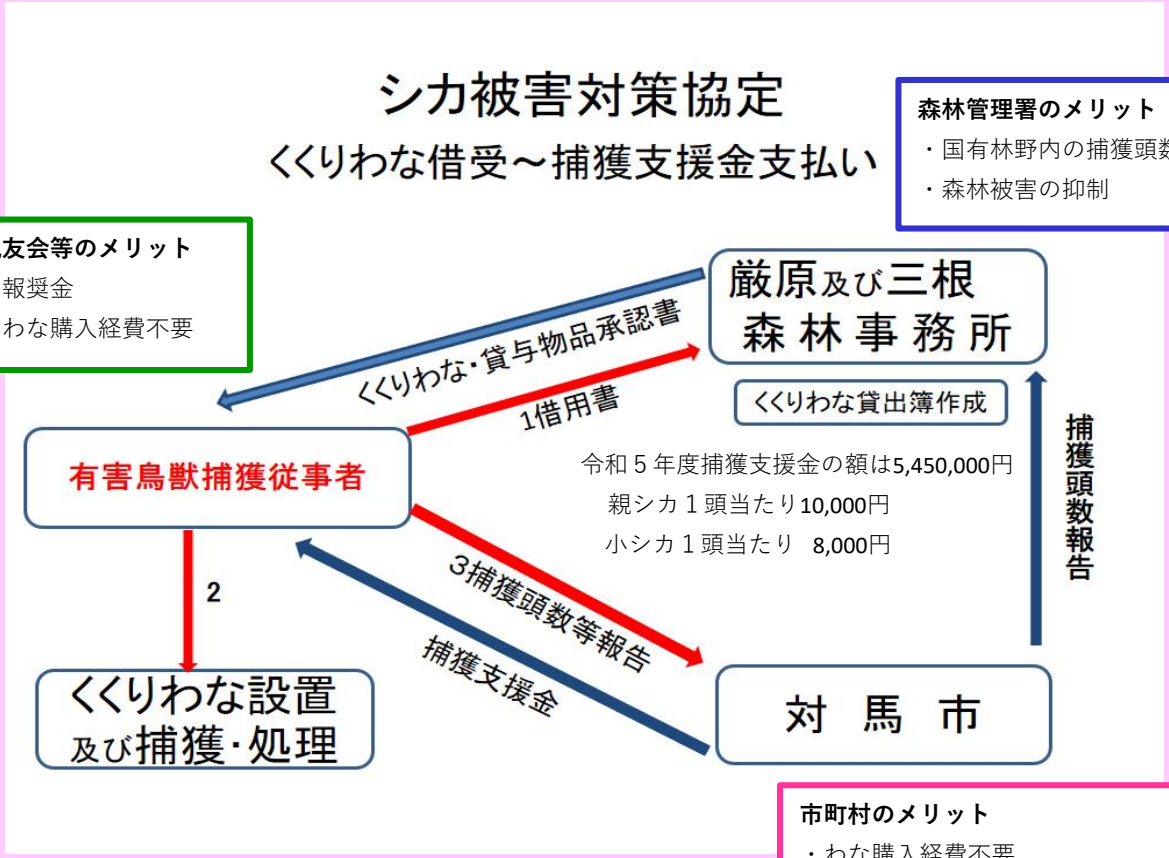
協定締結まで、協議会の運営で苦労した点

協議会での捕獲実施体制を構築することに苦労しました。

協定締結や協議会運営で工夫した点

対馬市との役割分担を明確にしたことにより捕獲実施体制がスムーズに機能するようになりました。

③ 協定、協議会関係図（一例）



市町村のメリット

・わな購入経費不要
・安全な捕獲
・わな設置に係る土地所有者の承諾不要

協定相手方、協議会参画者からの声

・地域の農林業被害の軽減につながりました。
・1頭あたりの報奨金の額を上げてほしい。（対馬市へ）
・使用済みのくくりわなの修理を森林官が行っているため、狩猟者から喜ばれています。

前年度の実績（森林被害対策、捕獲頭数）を更に伸ばすために予定していること

・令和5年度実績（国有林）
　対馬市とのシカ被害対策協定559頭、シカ誘引捕獲事業14頭、計573頭
・来年度は、わな貸出数の増と小林式誘引捕獲の導入を検討しています。